（郵信省認可）　（本號六面）　明治廿三年六月廿五日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千六百九十六號　水曜日
明治廿三年六月廿五日
舊暦庚寅五月九日（丁丑）

日出午前四時二十七分　入午後六時五十九分
月出午後十一時十七分　入午後十一時五十八分
滿潮午前十時十七分　午後十時四十一分

（西暦一千八百九十年）

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢○一箇年前金六圓
○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓

○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送達スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日并に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

農商務省の省是を定む可し（前號の續）

農商務省は長官の交迭頻繁にして省是常に定まらず或は事務を繁くして徒に多くの費を要し或は時に新條例を發して實業社會を驚かし或は之れに干渉して其獨立を妨ぐる等我輩の眼に映じて見苦しきもの少なからず左れば斷然之を廢して斯かる省あるを昔日に立ち返らんか或は大に改革して無類有用の一省と爲さんか今日の計、二者その一に居らざる可らず凡そ事を處分するの常法は之を消極積極に分ち進んで擴張する積極的に出でんか退て手を縮める消極的に由らんか進退何れをか撰ひ可き筈にして農商務省の處分に就ても先づ此方法を講ぜざる可らざれども消極と云ひ積極と云ひ從來有りの儘の農商務省を其儘にして伸縮するのみにては（因循姑息）病根の如く唯その患部の面積を伸縮するに過ぎざる可きのみ左れば今農商務省を改革せんとするに當り其方法を消極積極の二樣に分ちて有りの儘の事務を伸縮するのみにては所謂五十歩百歩にして其實効を見ざる可きが故に改革の必要ある今日に當りて爰に斷然省是を定め農商務省は農商工業を勸るの省たらずして之を護るの省たらざる可らず即ち農商工業に就き斯く〳〵すれば收穫を多くす可し、云々すれば商賣繁昌して工業進歩す可しなどとて事細く世話を燒き手を引て之を導くが如き奬勵法を用いず利を興すは人民銘々の利益心に任して傍より之を妨ぐるとなく唯政府の政策に於て若くは民間の事業に於て農商工業の發達を害するやうの事あらば常に其情實に着目して整心極力調立不偏の考を以て其害を防ぎ其利を通ずるの道を開くことを期す可し蓋し實業に從事する者は局處の利害に明かなれども其平常直接せざる大體の事務に通達して智眼の銳敏なるを望む可らず然るに今實業社會を實業家の自から經營するに任せ政府直接に手を下して興利の策を勸めざるに至らば銘策奇策も隨て減じ實業家自身に作りたる輿論は政府勸業部の理論に比して其平準點の低きと國より曾を待たざれども其低きは實業社會の自然に低きが爲めにして低き社會に高き輿論は徒に事を難くするに過ぎず從來農商務省にては農林學者と云ひ農學士と云ひ高價なる輿論家を奬成して實業家を誘導せしめんと勉めたるが如くなれども農學者の櫻蔬雌蕊輪は實際老農を感せしむるに足らず獸醫學士の馬病論は多年經驗ある馬口勞をして窃に嘯嗟せしむるが如きとありて學者は實業家を眼鏡越しに睨付け實業家は學者を迂濶なりとして常に敵視して之を遠ゲ兩々相對して何分折合の附き難きは今日の實際に於て然るものゝ如し然るに今此學者流の人が腦中一種の權關を高きて學理を實業に當て箝めんとし事細く指圖する其中には地味氣候をも察せずして熱帶の植物を我國に移植し勸業の實を擧けたりあるを或は商工業上に關して人情習慣の斟酌なく西洋諸國に行はるゝ法律文を飜譯して直に之を條例と爲し水面に喰喎する群魚の上よりバサリと投網を下すが如く一時に之を發布するが故に人民は法網中の魚と爲り所謂八方塞りにて進退當惑するが如き事情あるは毎度珍らしからざるなり斯くて政府が條例を以て或は又奬勵法を以て農商工を追ひ廻はし其指圖に從つて心にもなき働を爲さしむるも猿廻しが猿を使ふが如く其猿たる者の迷惑は暫く置き事々所謂猿眞似にして眞の働は出來ざる可し左れば農商務省にても今後は勸業の念を絶ち實業家の一念發起して自から爲すが儘に任じ夫れも行屆かず是れも發達せずなどとて又候干渉の手を出さいるやう堅固に省是を定めざる可らず斯くて農商務省にて堅く勸業の手を封じ農工商業總べて人民の自營に任するとも爲らば干渉より放任に移るの際に事物の是れは彼の鉢植の樹木を更に大地に植え換へるの際に一時凋衰の色を現はすと一般、深く根を人民の自力に托して漸次その氣勢を得るの日に至らば根底頗る堅固にして風霜烈日に耐ふるを得べし即ち農商務省に於て民業自興の道を開くは實に今日の急務にして之れに處するは唯其勸業の手を袖にして無爲を守るの一策あるのみ斯くて勸業興利に就ては毫も嘆を容れざるに引き替へ農商工業の不利と爲り又妨害と爲るものに就ては其事の政府に出づると又民間に起るとに論なく常に農工商を代表して之れが爲めに代言し又之れが爲めに辨護し寸毫の利害をも爭ふて假借依怙する所なく農商務省をして農商工の利害を代表し又之を護衛するの特色を呈せしむると最も肝要なる可きなり（未完）

官報

陸軍人恩給法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治廿三年六月二十日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
陸軍大臣伯爵大山巌
海軍大臣子爵樺山資紀

法律第四十五號

軍人恩給法

第一章　總則

第一條　陸海軍軍人ニシテ現役ヲ離レタル者ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス○第二條　陸海軍軍人恩給ハ左ノ六種トス「一」退職恩給「二」廢疾恩給「三」遺族恩給「四」賜恤金「五」給助金「六」扶助料○第三條　退職恩給、死除恩給、增加恩給及寡婦ノ扶助料ハ終身、孤兒ノ扶助料ハ年齡滿二十歲ニ至ルマテ賜恤金、給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第二章　退職恩給、死除恩給、增加恩給

第四條　退職恩給ハ唯士官以上左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス「一」現役十一年以上ニシテ定限ノ年齡ニ達シ又ハ定限ノ年齡ニ達セサルモ傷痍ヲ受ケ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準ズヘキ者ニシテ職退シタルトキ「三」戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ「四」現役十一年以上ニシテ未タ定限ノ年齡ニ達セスト雖休職停職滿期若クハ諭旨ニ依テ退職シタルトキ○第五條　死除恩給ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス「一」現役十一年以上ニシテ定限ノ年齡ニ達セサルモ服役滿期トナリ或ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ「二」第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ○第六條　退職恩給、死除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依テ之ヲ給ス但現役四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十一年ノ額トス○第七條　軍人現役十一年以上ニシテ交官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス○第八條　退職恩給、死除ハ給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シタル者退職又ハ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス「一」再ヒ現役ヲ離ルヽトキハ現官階當初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等ナラサルトキハ前役年數ニ再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スルト既得ノ恩給トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス「二」前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前役十一年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十二年以上ニ至ラサレハ增加セス○第九條　增加恩給ハ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、死除恩給ノ外特ニ給スルモノトス「一」兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ「二」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ「三」一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失フトキ「四」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ「五」一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ「六」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ○第十條　增加恩給ノ年額ハ軍人之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ從ヒ第三號表ニ依リ之ヲ給ス○第十一條　戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケスシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限內ニ檢査ヲ願出トキハ第定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス「一」一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二箇年「二」一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三箇年○第十二條　傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ「一」傷痍疾病ノ原因ハ現認證對又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書「二」傷痍疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官ノ證書若クハ陸海軍醫官ノ査驗ヲ經タル醫師ノ證書○第十三條　退職恩給、死除恩給、增加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

○第三章　賜恤金、給助金

第十四條　賜恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受クサル者ニ之ヲ給ス「一」戰鬪及戰地公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス○第二條　陸海軍軍人恩給ハ左ノ六種トス「一」退職恩給「二」廢疾恩給「三」遺族恩給「四」賜恤金「五」給助金「六」扶助料○第三條　退職恩給、死除恩給、增加恩給及寡婦ノ扶助料ハ終身、孤兒ノ扶助料ハ年齡滿二十歲ニ至ルマテ賜恤金、給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第二章　退職恩給、死除恩給、增加恩給

第四條　退職恩給ハ唯士官以上左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス「一」現役十一年以上ニシテ定限ノ年齡ニ達シ又ハ定限ノ年齡ニ達セサルモ傷痍ヲ受ケ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ職退シタルトキ「二」戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ「四」現役十一年以上ニシテ未タ定限ノ年齡ニ達セスト雖休職停職滿期若クハ諭旨ニ依テ退職シタルトキ○第五條　死除恩給ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス「一」現役十一年以上ニシテ定限ノ年齡ニ達セサルモ服役滿期トナリ或ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ「二」第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ○第六條　退職恩給、死除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依テ之ヲ給ス但現役四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十一年ノ額トス○第七條　軍人現役十一年以上ニシテ交官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス○第八條　退職恩給、死除ハ給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シタル者退職又ハ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス「一」再ヒ現役ヲ離ルヽトキハ現官階當初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等ナラサルトキハ前役年數ニ再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スルト既得ノ恩給トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス「二」前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前役十一年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十二年以上ニ至ラサレハ增加セス○第九條　增加恩給ハ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、死除恩給ノ外特ニ給スルモノトス「一」兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ「二」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ「三」一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ「四」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ「五」一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ「六」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ○第十條　增加恩給ノ年額ハ軍人之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ從ヒ第三號表ニ依リ之ヲ給ス○第十一條　戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケスシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限內ニ檢査ヲ願出トキハ第定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス「一」一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二箇年「二」一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三箇年○第十二條　傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ「一」傷痍疾病ノ原因ハ現認證對又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書「二」傷痍疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官ノ證書若クハ陸海軍醫官ノ査驗ヲ經タル醫師ノ證書○第十三條　退職恩給、死除恩給、增加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

○第三章　賜恤金、給助金

第十四條　賜恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受クサル者ニ之ヲ給ス「一」戰鬪及戰地公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス「二」給助金ハ前條ニ應シ前條第六ヨリ少カラス第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス「三」賜恤金ハ多カラサル金額ヲ一時ニ給シ給助金ハ其年額ヲ以テ之ヲ給ス○第十五條　賜恤金ハ現役中死歿シ若クハ現役ヲ離レ退職恩給ヲ受ケ若クハ第四號表ニ依リ恩給ヲ受ケ死歿シタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス○第十六條　賜恤金ハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス「三」賜恤金ハ多カラサル金額ヲ一時ニ給シ給助金ハ其年額ヲ以テ之ヲ給ス○第十七條　賜恤金ハ現役中死歿シ若クハ現役ヲ離レ退職恩給ヲ受ケ若クハ第四號表ニ依リ恩給ヲ受ケ死歿シタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス

第四章　服役

第十七條　服役ハ退職恩給、死除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依リ之ヲ給ス○第十八條　服役ハ初任ノ日陸海軍卒ヨリ出身ノ士官ハ二十四條第六ニ掲クル始期ヨリ之ヲ計算ス

陸軍兵卒ハ入隊ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第二十四條　第七ニ掲クル始期ハ左ノ如シ

北海道ニ移住シ卒ヨリ出身ノ士官ハ軍人及海軍準動仕ノ者ハ同月年五月一日以前金ニ係ル服役年服役年ノ終期ハ左ニ掲クル始期ヨリ服役年ノ始期ヨリ備ニ在ル者戰時集中ノ日數「二」海軍服務ノ者ハ集中ノ日數「三」陸軍服務ノ者ハ陸軍ニ至ルマテハ文官ハ陸軍見習士官ヨリ再ヒ現役ニ就キタル日ヨリ陸軍見習士官夫及北海道移住卒ニシテ從軍シタル日數ハ服役日數「二」陸軍見習士官ノ日數但從軍中ノ日數ニシテ年齡十七歲未滿ノ者ハ服役ニ算セサル日數「三」陸軍見習士官夫及北海道移住卒ニシテ從軍シタル日數ハ服役日數「二」陸軍見習士官ノ日數但從軍中ノ日數ニシテ年齡十七歲未滿ノ者ハ服役ニ算セサル日數「三」

第二十五條　從軍加算スルモノ左ノ各項ニ依ルセラレ內國港灣戰ニ當リ出征ヲ命ス箇年ニ在テハ二箇年

鉞戍ニ在リタル積アル者及一時スヘキ場合ハ動國航海ハ從軍年半箇年ニ加算ス但箇年ヲ加算ス○第二十三條役ニ從ヒ若クハ但其一年以上ニ役若クハ一航海

第二十六條　第六章　軍

第二十四條　軍職恩給、死除恩給ハ左ノ如シ「一」退職恩給「二」廢疾恩給「三」遺族恩給「四」賜恤金「五」給助金「六」扶助料○第三條　退職恩給、死除恩給、增加恩給及寡婦ノ扶助料ハ終身、孤兒ノ扶助料ハ年齡滿二十歲ニ至ルマテ賜恤金、給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第二章　退職恩給、死除恩給、增加恩給

第四條　退職恩給ハ唯士官以上左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス「一」現役十一年以上ニシテ定限ノ年齡ニ達シ又ハ定限ノ年齡ニ達セサルモ傷痍ヲ受ケ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ職退シタルトキ「二」戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ「四」現役十一年以上ニシテ未タ定限ノ年齡ニ達セスト雖休職停職滿期若クハ諭旨ニ依テ退職シタルトキ○第五條　死除恩給ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス「一」現役十一年以上ニシテ定限ノ年齡ニ達セサルモ服役滿期トナリ或ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ「二」第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ○第六條　退職恩給、死除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依テ之ヲ給ス但現役四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十一年ノ額トス○第七條　軍人現役十一年以上ニシテ交官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス○第八條　退職恩給、死除ハ給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シタル者退職又ハ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス「一」再ヒ現役ヲ離ルヽトキハ現官階當初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等ナラサルトキハ前役年數ニ再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スルト既得ノ恩給トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス「二」前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前役十一年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十二年以上ニ至ラサレハ增加セス○第九條　增加恩給ハ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、死除恩給ノ外特ニ給スルモノトス「一」兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ「二」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ「三」一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ「四」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ「五」一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ「六」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ○第十條　增加恩給ノ年額ハ軍人之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ從ヒ第三號表ニ依リ之ヲ給ス○第十一條　戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケスシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限內ニ檢査ヲ願出トキハ第定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス「一」一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二箇年「二」一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三箇年○第十二條　傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ「一」傷痍疾病ノ原因ハ現認證對又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書「二」傷痍疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官ノ證書若クハ陸海軍醫官ノ査驗ヲ經タル醫師ノ證書○第十三條　退職恩給、死除恩給、增加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

○第三章　賜恤金、給助金

第十四條　賜恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受クサル者ニ之ヲ給ス「一」戰鬪及戰地公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス「二」給助金ハ前條ニ應シ前條第六ヨリ少カラス第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス「三」賜恤金ハ多カラサル金額ヲ一時ニ給シ給助金ハ其年額ヲ以テ之ヲ給ス○第十五條　賜恤金ハ現役中死歿シ若クハ現役ヲ離レ退職恩給ヲ受ケ若クハ第四號表ニ依リ恩給ヲ受ケ死歿シタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス

第四章　服役

第十七條　服役ハ退職恩給、死除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依リ之ヲ給ス○第十八條　服役ハ初任ノ日陸海軍卒ヨリ出身ノ士官ハ二十四條第六ニ掲クル始期ヨリ之ヲ計算ス

陸軍兵卒ハ入隊ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第二十四條　第七ニ掲クル始期ハ左ノ如シ

北海道ニ移住シ卒ヨリ出身ノ士官ハ軍人及海軍準動仕ノ者ハ同月年五月一日以前金ニ係ル服役年服役年ノ終期ハ左ニ掲クル始期ヨリ服役年ノ始期ヨリ備ニ在ル者戰時集中ノ日數「二」海軍服務ノ者ハ集中ノ日數「三」陸軍服務ノ者ハ陸軍ニ至ルマテハ文官ハ陸軍見習士官ヨリ再ヒ現役ニ就キタル日ヨリ陸軍見習士官夫及北海道移住卒ニシテ從軍シタル日數ハ服役日數「二」陸軍見習士官ノ日數但從軍中ノ日數ニシテ年齡十七歲未滿ノ者ハ服役ニ算セサル日數「三」

第二十五條　從軍加算スルモノ左ノ各項ニ依ルセラレ內國港灣戰ニ當リ出征ヲ命ス箇年ニ在テハ二箇年

鉞戍ニ在リタル積アル者及一時スヘキ場合ハ動國航海ハ從軍年半箇年ニ加算ス但箇年ヲ加算ス○第二十三條役ニ從ヒ若クハ但其一年以上ニ役若クハ一航海

第二十六條　第六章　軍

第二十四條　軍職恩給、死除恩給ハ左ノ如シ「一」退職恩給「二」廢疾恩給「三」遺族恩給「四」賜恤金「五」給助金「六」扶助料○第三條　退職恩給、死除恩給、增加恩給及寡婦ノ扶助料ハ終身、孤兒ノ扶助料ハ年齡滿二十歲ニ至ルマテ賜恤金、給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第二章　退職恩給、死除恩給、增加恩給

第四條　退職恩給ハ唯士官以上左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス「一」現役十一年以上ニシテ定限ノ年齡ニ達シ又ハ定限ノ年齡ニ達セサルモ傷痍ヲ受ケ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ職退シタルトキ「二」戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ「四」現役十一年以上ニシテ未タ定限ノ年齡ニ達セスト雖休職停職滿期若クハ諭旨ニ依テ退職シタルトキ○第五條　死除恩給ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス「一」現役十一年以上ニシテ定限ノ年齡ニ達セサルモ服役滿期トナリ或ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ「二」第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ○第六條　退職恩給、死除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依リ之ヲ給ス○第七條　軍人現役十一年以上ニシテ交官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス○第八條　退職恩給、死除ハ給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シタル者退職又ハ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス「一」再ヒ現役ヲ離ルヽトキハ現官階當初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等ナラサルトキハ前役年數ニ再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スルト既得ノ恩給トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス「二」前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前役十一年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十二年以上ニ至ラサレハ增加セス○第九條　增加恩給ハ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、死除恩給ノ外特ニ給スルモノトス「一」兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ「二」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ「三」一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ「四」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ「五」一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ「六」前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ○第十條　增加恩給ノ年額ハ軍人之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ從ヒ第三號表ニ依リ之ヲ給ス○第十一條　戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケスシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限內ニ檢査ヲ願出トキハ第定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス「一」一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二箇年「二」一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三箇年○第十二條　傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ「一」傷痍疾病ノ原因ハ現認證對又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書「二」傷痍疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官ノ證書若クハ陸海軍醫官ノ査驗ヲ經タル醫師ノ證書○第十三條　退職恩給、死除恩給、增加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

○第三章　賜恤金、給助金

第十四條　賜恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受クサル者ニ之ヲ給ス「一」戰鬪及戰地公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス「二」給助金ハ前條ニ應シ前條第六ヨリ少カラス第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス「三」賜恤金ハ多カラサル金額ヲ一時ニ給シ給助金ハ其年額ヲ以テ之ヲ給ス○第十五條　賜恤金ハ現役中死歿シ若クハ現役ヲ離レ退職恩給ヲ受ケ若クハ第四號表ニ依リ恩給ヲ受ケ死歿シタル者ハ賜恤金ハ之ヲ給ス

第四章　服役

第十七條　服役ハ退職恩給、死除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依リ之ヲ給ス○第十八條　服役ハ初任ノ日陸海軍卒ヨリ出身ノ士官ハ二十四條第六ニ掲クル始期ヨリ之ヲ計算ス

陸軍兵卒ハ入隊ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第二十四條　第七ニ掲クル始期ハ左ノ如シ

北海道ニ移住シ卒ヨリ出身ノ士官